

■ 報告 ■

「アイトイシキ」をキーワードに人と人との繋がりや地域の魅力を見つめ直すことを目的にした野外型の文化芸術イベントです。会場は海辺の丘の上にある絶景キャンプ場「アウトドアフィールド KASHINISI」。芝居を中心にトーク、音楽、ダンス、ライブペイント、プロジェクションマッピングなど多様な表現が集まる複合型の野外アートイベントです。イワモトジロウさんという舞台作家さんに竹で舞台を4~5日間かけて通って作っていただいて、ここでお芝居と音楽をやりました。照明の檣も作り、結構本格的にやっています。マーケットがあつたりとか、ティピを建てて演奏をしたりしました。

人と人の繋がりや地域の魅力を見つめ直すという目的もあり、出演者は過去に大月町で開催された野外イベント「チルチルミチル」や「幻想の抜け殻」で関わったアーティストが中心でした。過去4年か5年間くらい、年1回やっていたイベントで、幡多地域で活動しているアーティストがほとんどだったのですが、その方たちに再集結していただいて関わっていただきました。そのような形で地域との関係性を継続しながら、幡多地域を中心に活動しているアーティストの魅力を最大限に表現できる空間を作り、県外アーティストとも交流できる場作りができたと思います。実際、今回出演した県外アーティストの方とも繋がりが出来て、その方たちと3月にリトリートイベントを大月町で開催する予定です。

このような感じで地域の人たちの出店者だったり、賄いも近隣の婦人部の方に作っていただいたり、地域の方と繋がりが出来たイベントでした。その方たちも会場と一緒に芝居を見て一緒に繋がって楽しむことができました。実際、自分たちが目指すところは文化や芸術を媒介とした地域の魅力と人との繋がり、そして、何より、地域に住む自分たちの暮らす町の魅力を改めて感じていただく機会の創出です。芸術のもたらす心豊かさを地域全体で共有する、それが本イベントの大きな目的です。結果として幡多地域の出演者としっかり繋がりが出来たと実感することができたイベントでした。

3日間は結構長かったのですが、3日間あったのでライブアートなどしっかり作品が仕上がったというところです。子どもたちもすごく楽しんでくれていました。また、3日間違うお芝居が観られるというのは、皆さんに好評でした。実際、何回か音楽のイベントをしているのですが、やはりどうしてもバンドだったり、DJだったり、知っているアーティストの時にはいくという感じのところがあって、そうじゃなくて皆で同じものを共有したいというところで今回はお芝居という形で、なるべく観たことがない芝居を皆が観にきて、楽しめることを目的としました。

■ 視察委員からの意見 ■

距離的なハードルがある場所で、これだけのことをやっているんだと、最初正直とても驚きました。濃度・密度が高いイベントをされているんだなと感じました。車でしかアクセスできない場所なのに、結構地元の方が散歩されていて、その方たちに何をやっているのかと質問されました。報告では地元の方とコミュニケーション取られているということなので、落ち度とかではなく、その方たちも知っていたら予定を組んで来たということを知っていたので、これからも拡張性のあるイベントだなと感じました。(山口隆広委員)

地域の人たちに町内放送やテレビでも少し告知したりしていたのですが、年配の方だと放送も聞こえなかったりしたかもしれません。もともと無料のキャンプ場だった所が何年か前に有料キャンプ場になってしまって、なかなかイベントが出来なかったということもあります。地域の方は普通に散歩などで利用されている形でこのキャンプ場が成り立っているのです、普通に散歩している方がいきなり来てそのまま、楽しんでいってくれたら、良いと思います。

■会場からの質問■

●1 から舞台を組み上げて実施するイベントの経験はこれまでにありますか。

ーここまでの規模ではないですが、この同じ場所や清水、お芝居を中心とした「幻想の抜け殻」（イベント名）はやっていました。作る人は作る人ですが、2年に1回開催したいと思っています。